

1. 地域経済と課題

(1) コロナの影響で昨年の我が国の出生数が初めて 80 万人を割った。唐津を見ると、23 年 1 月 1 日現在 116,970 人、5 年間で 6,805 人減少している。出生はコロナの影響を受けた 22 年は 762 人でコロナ以前の 18 年の 978 人の 78%になっている。5 年間の人口減の 60.7%が自然減、社会減が 39.3%。

| | 2019.1.1 | 2020.1.1 | 2021.1.1 | 2022.1.1 | 2023.1.1 | 計 |
|----------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|--------|
| 人口(対前年比) | 122,528(△1,247) | 121,278(△1,250) | 119,869(△1,409) | 118,400(△1,469) | 116,970(△1,430) | △6,805 |
| 出生(前年) | 978 | 877 | 863 | 864 | 762 | 4,344 |
| 死亡(前年) | △1,636 | △1,587 | △1,674 | △1,711 | △1,869 | △8,477 |
| 自然減(前年) | △658 | △710 | △811 | △847 | △1,107 | △4,133 |
| 社会減(前年) | △589 | △540 | △598 | △622 | △323 | △2,672 |

- (2) 玄海原発の作業員の増減は唐津の飲食・宿泊・タクシー需要等に大きな影響を与える。過去 3 か年の推移をみると、九電社員約 600 人を除いて、最高は 22 年 5 月の 4,260 人、最少は 20 年 4 月の 1,880 人。今後は 13 か月稼働、3~4 か月の定期検査が繰り返す。市内事業者がこの動向を把握して本業に活かさないか。
- (3) 唐津の代表的なホテルの経営主体が変わる。シーサイドホテルは本年 1 月 1 日から DHC 創業者の吉田嘉明氏が社長を務める(株)唐津シーサイドホテルに、旧ロイヤルホテルは JHRA がアセットマネージャーを務める、(合)恵比寿リゾートへ譲渡(4月3日予定)。唐津観光の一層の発展になることを期待する。

2. 経営相談(巡回・窓口)から見える地域経済と課題

- (1) 10 月から 12 月までの第 3 四半期では巡回 188 件、窓口 550 件を行った。前期比、巡回件数は 33%増、窓口件数は横ばい傾向である。県や市の助成金関連の周知広報のために積極的に巡回を実施。
- (2) いよいよ今年 10 月からインボイス制度がスタートする。原則 3 月末までの登録申請が 4 月以降も可能に。当所では窓口での説明やセミナーを 2 回開催し制度周知を行った。また税務署でも説明会を定期的に開催中。
- (3) 佐賀県は燃油や物価高騰に対する緊急措置として応援金を交付中。申請期限は 2 月 6 日まで。
- (4) 佐賀県はコロナや原材料等高騰で影響を受ける事業者に対し、新しいチャレンジを支援する補助金を公募中。当所では公募要領を説明し、事業計画の策定の支援を行っている。申請期限は 2 月 10 日まで。

3. LOBO 調査(早期景気観測)&中小企業景況調査

(1) LOBO 調査【令和 5 年 1 月調査】

業況 DI は、経済活動は回復も、コスト増で横ばい。先行きは、国内外の需要減退懸念から厳しい見方。

・全産業合計の業況 DI は、▲18.4 (前月比±0.0 ポイント)

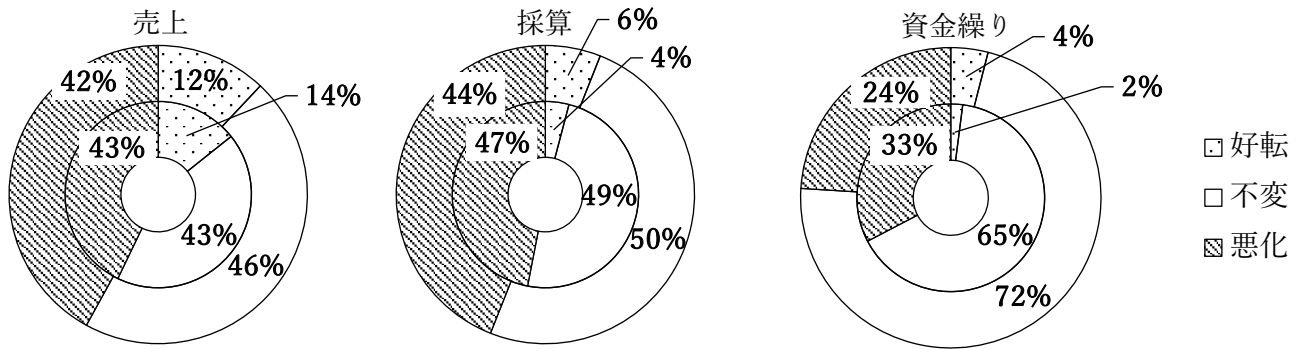
全国：建設業では、設備投資や住宅関連の民間工事が堅調に推移し、業況が改善した。また、小売業では、初売りが好調だった百貨店を中心に、業況が改善した。一方、サービス業では、年始の感染拡大で、新年会のキャンセルが発生した飲食店が全体を押し下げ、業況が悪化した。また、製造業や卸売業では、外需減退により受注数が減少した電子部品関連を中心に業況が悪化した。経済活動が正常化に向かう一方、原材料・エネルギー価格の高騰、人手不足に伴う人件費等、負担するコストは増加が続いている。コスト増に見合う価格転嫁も十分に行えておらず、中小企業の業況は、横ばいに留まった。

九州：業況 DI は悪化。サービス業では、感染拡大傾向に伴う予約キャンセルの発生や、法人等による大規模な新年会の中止の影響を受けた飲食店を中心に売上・採算が悪化した。製造業では、サービス業の業況の悪化の影響を受け、飲食品関係を中心に売上・採算が悪化した。また、物価高による消費マインドの低下は継続しており、先行きにおいても業況の改善を見通せないという声が聞かれた。

(2) 中小企業景況調査【令和4(2022)年10月～12月調査】

円グラフの外側：前年同期（2021年10～12月）と比べた今期（2022年10～12月）の状況

内側：前々年同期（2020年10～12月）と比べた前年同期（2021年10～12月）の状況



直面している経営上の問題点（各業種の最も多かった問題点）

製造業：需要の停滞
 小売業：仕入単価の上昇
 サービス業：材料等仕入単価の上昇
 建設業：従業員の確保難
 卸売業：仕入単価の上昇・需要の停滞・店舗・倉庫の狭隘、老朽化
 →原油・原材料の価格高騰により仕入単価の上昇により影響を受ける業種が多い

4. 唐津の街のトピックス

- 唐津は食の街であることを再認識させられた。ムローメのランプ展での話。「県外からのお客さんも多いのですが、『せっかく、唐津に行くのであれば唐津の〇〇や□□で食事の予約が取れたときに行きたいので、早く展示会の日程を知らせてほしい』と言われた」。うれしい話である。
- いっぽう、名料亭「花菱」が業態を大きく転換。福岡在住人のFBに、「昨年末をもって唐津の日本料理／茶懐石の名店「花菱」さんが閉店されたとの残念な知らせに触れ、今年は意識して古き良きお店の暖簾をくぐろうと決意する。」 新業態での繁栄を期待するとともに、県外の唐津ファンの期待にも応えたい。
- 「オデカフェ」から「ソアビータ (SOAVITA)」へ。オデカフェは唐津に「都会」を持ち込んでくれた。10年間で約36万人の来客、約3億5千万円の経済波及効果。まちづくり会社からスピノフしての新たなチャレンジの応援をしたい。
- 唐津駅内で営業していた全国チェーンの「白木屋」が昨年末で閉店。駅構内という好立地にもかかわらずである。駅近くが好立地でなくなったのか、それとも他の要因かが問われる。
- 唐津駅南で長らく更地であったパチンコ店跡地にマンション「ポレスター唐津ザ・レジデンス」が建つ。戸数56戸、15階建。販売開始23年6月予定。大きな流れとしてのコンパクトシティ化が進む。
- 「乗田貞勝 画業50年～未来へ、子どもたちへーバリ、唐津からの伝言」が1月7日から同22日まで開催。実行委員会方式で48社から200万円超の寄附、延べ100人を超えるボランティアの協力で成功裏に終了した。延べ4,769人の鑑賞者。集団鑑賞の引率の先生からは感激の手紙がきた。
- シアターエンヤが昨年初めて1万人のお客を迎えた。133本の映画を上映。法人スポンサーのほかに佐賀県の「NPO 支援ふるさと納税制度」でも多数の支援。「映画で唐津のまちと人のハートを元気にする。」を旗印に多くのボランティアの活動が頼もしい。
- 浜崎の「汐湯風の音」が1月15日に営業を中止して新築工事に入る。約2年間の工事期間を経てオープンの予定。
- 1/13TBS系全国放送の「★冷凍食品&カレー！マニアー挙集結でNo1決定戦」で「唐房米穀一粒庵助六寿司」が第5位。順位より番組に載るルートを持っていることが重要。同社の(6)の広告もデザインが良い。